

ネイチャー高知

題字

会長 澤良木 庄一

No. 4 ; 1993・10・15

自然観察会「ブナ林ウォッチング」に寄せて

本年6月27日に石鎚山系のブナ原生林をテーマとした、本会では初めてバスを借り上げての観察会「ブナ林ウォッチング」を行いました。当日、会に参加され、いろいろとお世話になった恒石直和氏（高知市こども科学図書館指導員）から会報への寄稿いただきました。紙面を借り感謝申し上げます。

二 題

恒 石 直 和

伊吹山を歩く(1,401m)

昨6月27日1年ぶりでよさこい峠経由で伊吹山近辺を歩く。今朝も梅雨時の晴れ間である。コースは伊吹山自動車道と稜線である。

石鎚方面は曇って見えず、瓶が森方面が時々姿を見せる。



道路下にはブナが緑褐色の実を鈴なりにつけている。現地で暮らして観察してみないと分からないことであるが、毎年実をつけるだろうが、成り年とそうでない年があるのではないか。東北各地のブナ林を見て、今ここの林を見てみるとここはブナの疎林といってよい。それだけに

独立ブナ大木の風格は巨人を思わせる。二抱えもある樹幹の肌は白く清潔でもあ

る。聴診器をあてて耳を澄ますと明らかに心臓の鼓動にも似た音もつとゆるやかに聞こえてくる。今は雨の時期、実をつけ葉を存分に広げている時である。冬には恐らく鼓動はキャッチできないだろう。林床の腐葉の厚さと湿りを目で手で確かめてみた。リスが集めて忘れ残しているのだろうか、昨秋の実が一カ所群れて残っていた。

辺り一帯はミズナラの大木も混じっている。他にミズキ・ハリギリ（センノキ）・テツカエデ・カンスゲ・スギゴケも生えている。ブナ樹幹にはツリガネタケも。

道路沿いにはニシキウツギそれも紅花の方が殆どであった。山沿いの砂崩壊地にはショウジョウバカマ・ホソバナヤマハハコ・モウセンゴケ・クロズル・ケナシエゾノヨツバムクラなどが見られた。

道路下側には赤い芽立ちのヤマブドウ・白花をつけたオオバアサガラやテツカエデ・ウリハダカエデなども見られた。ウリハダカエデは葉柄が短かく早くもプロペラ状の実をつけ、テツカエデは葉柄15cmと長く緑色ひも状の花をつけていたので対比し易く見分けがはっきりした。

他にクマイチゴに似た葉を持ったコマガタスグリやコハウチワカエデ・ナンゴクミネカエデ・クマシデ・コシアブラ・シナノキなども見られた。

稜線にはウラジロモミの白骨や風衝のため低木になっているトガの他、カクミノスノキ・コメツツジ・モウセンゴケ・ネバリノギランやチゴユリらしいものを見かけた。トゲアザミは今が花盛り、多く目についた。

ウラジロモミの新芽が余りにも目に優しく放射状の小枝の造形が美しく見えたので写真に撮った。

頂上一帯はミヤマクマザサであろうか、10cmから50cm位のものまである。優占種のショウジョウスゲは見過ごしたのでであろうか確認してこなかったのが残念である。

もう20年の前のこと公平高知営林局長とここのブナ林の立派さを讃え、林道舗装の不可を訴えたことを思いおこす。今でも舗装なしのこの林道を強く「よし」と思い続けている。

岩黒山を歩く(1,746m)

土小屋下の駐車場から手箱・筒上への道に行く。登り口のクロヅル花序はまだうぶ、ニワトコは早くも緑小粒の実をつけている。オタカラコウの花茎はまだ見られない。イブキザサ群からウラジロモミ群落に入る。林床にスギゴケの新葉が濃緑に鮮明に見える。ずっと平坦といってよい道が続き所々に小さな沢が横切っている。こんな所は上下の見渡しがきく。

数は少ないがカツラやサワグルミ・ヒコサンヒメシャラが目につく。また直径1m位のハリギリ(センノキ)があって、空いっぱい枝を広げていた。その幹の視線の上の方にエゾハルゼミらしいもののぬけがらも見かけた。コマドリの2・3声を聞いた。

道下にミヤマガマズミの白花やニシキウツギの白花も見かけた。コマガタスグリの緑の花序も垂れ下がっていた。

岩の上にヒメレンゲの黄花を見つけた。珍しいキイロスッポンダケやカニノツメに似たキノコも見られた。後者はサンコタケかも知れない。よく見たつもりであったが、この際は写真判定をするより他はない。

日当たりの斜面にはコハウチワカエデ・ナンゴクミネカエデなど見られ他にもアサノハカエデも見られた。ヒロハヘビノボラズやシロドウダンも散見された。エンレイソウや花の終わったイワセントウソウも意外に多かった。道ぶちは今日の午前にもお寺の檀家の人々の手で思いきり草刈が行われた直後で小さな草々は殆ど刈りとられていた。

沢ぞいにはマルバテンニンソウやハナウド・オタカラコウがこれからといわんばかりに繁っていた。8月中旬に来ればまた変わった様相が見られるのにと考えた。オオカメノキはすでに実をつけていた。

日当たりの尾根コースに出るとタンナサワフタギの白花も見られた。足下のトゲアザミはいうまでもないがニガナの黄花・白花がいたる所に見られた。岩黒南面の尾根から筒上方面の原生林がはるかに見おろせ、手箱がかすんで見え、ホトトギスが絶え間なく鳴いていた。

頂上近くベニドウダン・コヨウラクツツジが多くなった。山頂寸前でマイヅルソウ開花を見つけた。横道にはショウジョウスゲが多いと思ったが果たしてどうか、ヒナスゲも見つめたと思うが、スゲの類は仲々同定が困難で、後調べも分からず

じまいが多い。

谷間の岩陰で久々にムカゴイラクサを見たのは本日の収穫であったが、山頂を後にしてヒメコマツの群落に入った時は何回も止まり、見渡し、写真にも撮った。石鎚山系のもは葉が黄味を帯びている。赤石山系の濃白緑とはっきり色彩が違うがキタゴヨウマツと具体的にどんな関係があるのかなどと思ったりする。狭い一区画のヒメコマツ純林は瓶が森辺りでは見られないと思うが分布と生育条件については考察の必要があると考えられる。

下山途中で溶岩状の火砕流岩盤を確認したことは意外の収穫であった。テバコワラビを尋ねていたが到々初見できなかった。ヒカゲツツジは古い葉が淡い赤色で残り新緑はまだであった。

昨今はブナ・ブナ林とさわがれているが、針葉樹林帯と混交する落葉広葉樹林の景観と林中歩行は諸々の生物界の中で複雑な生体系を保っており、その効用は実感として体得できる。

ケヤシャブシ・クマシデ・チドリノキ・シナノキ・ブナ・ハリギリ・カエデ類を含む源流原生の魅力を度重ねて味わいたいと思うし観察を繊細にしたいと思う。

平成5年6月27日(日) 伊吹山ブナ林観察会 (記録 野町泰造)

昆虫類：トゲアザミに訪花中のキアゲハ、ミドリヒョウモン、アカタテハ、ヒメアカタテハ、モンキチョウ、コチャバネセセリ、スジグロシロチョウなど。また、食虫植物モウセンゴケに捕まっていたブヨ、アリSP.等観察することができました。

バスの中でご説明したブナ林の日本特産種フジミドリシジミは時間の都合でポイント(山荘しらさの裏手付近)まで行くことができなかったのも、残念ながら見ることはできませんでした。

また、伊吹山では別府さんがオカモトツヤアナハネムシ(*T. okamotoi*) (アカハネムシ科)を採集したと言うことをあとから聞きました。本種も日本特産種であり本州の一部及び四国、高知県では本川村、物部村、東津野村からわずかに記録のある、♂の前翅後部に穴のある珍種です。和名及び学名は高知昆虫研究会長の岡本啓先生に因むものです。

自然観察地案内 その1 野町泰造

— The best spots guide for Nature Watching in Kochi Pref.

場所：幡多郡大月町柏島周辺 (1:25,000 地形図, 柏島, 母島)

対象：1. 地形, 景観 大堂海岸, 柏島海岸, 観音岩など

2. 動物 陸上(ニホンザル), 海岸動物(魚類ほか)

3. 植物 ソナレノギク, アシズリノジギク, アコウ大樹など

距離及び所要時間：高知市—柏島 約 180 km (宿毛市, ニツ石経由)

3.5時間—4時間(片道)

大月町は自然景観資源として、海岸の美しいところが多く環境庁(「日本の自然景観」1989)に登録されているポイントが12ヶ所もあり県下で最も景観に恵まれている所であります。

柏島付近では ①大堂海岸の断崖 ②観音岩 ③お万の滝付近の展望が三大絶景で ①は車道沿いに、②は車道から数分で見られますので皆さんご存じと思いますが、③はお猿公園と観音岩の間なので 30 分程坂道を歩かなければならず一般に見過ごされますが、この付近から見る大断崖を近景に柏島、幸島、蒲葵島、沖の島、鶴来島などを遠景とするエーゲ海的な構図は息をのむ美しさで、高知県の海岸美の第1位であり、国際級のものとしても恥ずかしくないものであります。

写真撮影のコツ：午前 9 - 10 時ごろまでに現地につくと太平洋側の海の色(コバルトブルー)と豊後水道側の海の色(エメラルドグリーン)の対比が美しく、PLフィルターと低感度リバーサルフィルムとの組み合わせで最高の角度を狙ってください。午後から日没時にかけては島々がシルエットとなり海は金波銀波に輝き、写真としては大変難しくなりますがこれにも挑戦して見てください。また、この付近はお猿公園で餌付けしているいたずら好きのニホンザルがたくさんいますので、うっかりしてフィルムなど盗られないよう気をつけてください。

(毎日新聞社刊、森田敏隆編「日本の国立公園」シリーズにもこのポイントが撮られています。)

柏島周辺の地質は大堂海岸も含めほとんど四万十帯、中新世後期の花崗岩で構成されていて断崖となっているところには方丈節理や柱状節理が見られます。頭^{かしらつどい}集付近の花崗岩が大阪城築城のとき切り出されたという記録もあります。

野中兼山の遺堤（兼山堤＝柏島石堤）も勿論花崗岩でできていて、その前の浜が花崗岩の白い砂からなるキャンプ場で、海の水は透明で底が大変明るく魚たちが泳いでいる姿がはっきりと見えます。

ここではスキューバダイビングの準備がなくても水中マスクとスノーケルだけで、水深1－2mのところを見て行くと外洋では5－10m以下に棲んでいる魚もたくさん見られます。

9月、10月に観察したもののリストからひろってみましょう。

イソギンチャクSP., ユムシSP., ナガウニ, ホンヤドカリ, トゲアシガニ, メジナ, ソラスズメダイ, カゴカキダイ, チョウチョウウオ, チョウチョウウオSP., トゲチョウチョウウオ, オヤビッチャ, ツノダシ, ミツボシクロダイ, クマノミ, キュウセン, ベラSP., ウツボ, カワハギ, アイナメ, ゴンズイ, ハリセンボン, ギンタカハマ など

トゲアシガニは甲羅に金線の模様のある大変美しいカニで、素早く岩面を滑るように速く動くので撮影は容易ではなく、ハサミに生えているこん棒状の毛が聴覚として働いていると言われます。しかし、時に自分の腹に同じ甲殻類のフクロムシに寄生されている個体が見つかることがあります。

数年ほど前には、以前近くの養殖場で飼われていたアコヤガイが逸出し採取したものをキャンプの火であぶって食べようとする中から真珠がでてきたことなどありました。

本格的にダイビングを楽しもうとされるかたには柏島の「後の浜」をおすすめします。テーブルサンゴや熱帯性の魚の種類と群れの大きさはすばらしいもので、いまでもときおり新種も発見されるといわれます。平均水深5－10m、最大水深20mで柏島の北の浜(ゴロゴロ石)から泳いで行くこともできますがボートを利用するのが一般的です。

この付近の海域は秋には水温18－26°C 透明度15－25mに達し、ウェットスーツは5mm程度のものが必要です。

事務局便り

長い間会員の皆様への連絡が途絶えており誠に申し訳ありませんでした。総会では報告さしていましたが平成4年8月に大方町幡多青少年の家で開催された自然観察指導員講習会を受講された方の内約30名の方が新たに会員になりました。また、会則が一部改正になっておりますので事業実績と共にご報告申し上げます。

事業報告

平成4年事業実績

1月18日(日)	平成4年通常総会	高知市牧野植物園
2年 2日(日)	自然観察会「七草摘みと水鳥観察会」	南国市石土池
4月19日(日)	自然観察会「日高村榎山自然観察会」	日高村榎山
6月 6日(日)	自然観察会「ホタルを見るつどい」	高知市おおなる園
8月14-16日	自然観察指導員講習会	大方町幡多青少年の家
8月16日(日)	指導員研修会「鯨会」	中止
8月28日(金)	自然観察会「ナイトウォッチング」	高知市高知城
10月10日(土)	自然観察会「虫の音コンサート」	春野町仁淀川河口海岸
11月28-29日	宿泊研修会	徳島県立自然博物館

平成5年事業実績

1月24日(日)	平成5年通常総会・研修会	こども科学図書館
2月 7日(日)	自然観察会「七草摘みと水鳥観察会」	南国市石土池
4月11日(日)	自然観察会「春の蛇紋岩地観察会」	日高村榎山
4月18日(日)	自然観察会「どろんこ観察会」	高知市弘化台
6月27日(日)	自然観察会「ブナ林ウォッチング」	石鏡山系

高知県自然観察指導員連絡会会則

*下線部分…1992年1月改正箇所

(目的)

第1条 本会は、郷土の豊かな自然環境を保全するため、自然観察会活動を通じて自然保護思想の普及・啓発に寄与することを目的とする。

(名称)

第2条 会の名称を「高知県自然観察指導員連絡会」（以下「本会」という。）と称する。

(会員)

第3条 本会の会員は、次の4種類とする。

- (1) 正会員 (財)日本自然保護協会の認定した「自然観察指導員」の資格を有するもの。
- (2) 準会員 本会の目的に賛同するもの。
- (3) 賛助会員 本会の目的に賛同し、これを援助するもの。
- (4) 名誉会員 本会の目的を達成するための相談役。

2 指定期日までに会費を納入しないものは退会したものとみなすが、再入会は妨げない。

3 第1項の名誉会員は、会長が委嘱し、総会又は会報で告示する。

(活動)

第4条 第1条に掲げる目的を達成するため、次の活動を随時実施する。

- (1) 自然観察研修 会員の資質向上のため、自然科学の全般について専門家を招いての研修活動。
- (2) 自然観察指導の模擬実習 野外実技指導の勉強会。
- (3) 自然観察会
- (4) その他 自然保護に関する情報交換、連絡調整。会報の発行（名称：ネイチャー高知）。

(事務局)

第5条 本会の事務局は、代表世話人宅に置く。

(役員)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- | | | |
|--------------|-------------|-------------|
| (1) 会 長 1名 | (2) 副会長 若干名 | (3) 幹 事 若干名 |
| (4) 代表世話人 1名 | (5) 世話人 若干名 | (6) 監 事 1名 |

(役員を選任)

第7条 役員は、総会で会員の中から選任する。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

3 幹事は、会長、副会長を補佐し、本会に助言、指導を行う。

4 代表世話人は、会長、副会長を補佐し、日常の事務を処理する。

5 世話人は、代表世話人の職務を援助する。

6 監事は、本会の会務及び財産に関し、次の職務を行う。

- (1) 財産状況を監査すること。
- (2) 会務執行の状況を監査すること。

(役員任期)

第9条 本会の役員任期は、2年とする。

2 役員再任は、妨げない。

(役員報酬)

第10条 本会の役員報酬は、無給とする。

(総会)

第11条 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(構成)

第12条 総会は、正会員、準会員及び名誉会員(以下「構成員」という。)をもって構成する。

(会議の権能)

第13条 総会は、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算。
- (2) 事業報告及び収支決算。
- (3) 会費の金額の決定及び徴収方法に関する事。
- (4) 会則の変更。
- (5) 役員選任又は解任。
- (6) 本会の解散及び残余財産の処分に関する事。
- (7) その他役員が必要と認めた事。

(総会の開催)

第14条 通常総会は、毎年1月に会長の招集により開催する。

2 臨時総会は、会員の1/5以上の請求又は会長が必要と認めるときに随時開催する。

(総会の議長)

第15条 総会の議長は、その総会において、出席した会員のうちから選任する。

(定足数)

第16条 総会は、構成員の過半数の出席がなければ、会議を開催し議決をすることができない。

(議決)

第17条 総会の議決は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(書面表決等)

第18条 やむを得ない理由により、総会に出席できない構成員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の構成員を代理人として表決を委任することができる。この場合において、前2条の規定の適用は、会議に出席したものとみなす。

(会費及び納入期限)

第19条 会費の年額は次のとおりとし、当該年度の12月末までに納めるものとする。

- (1) 正会員 1,000円
- (2) 準会員 1,000円(ただし、未成年者は半額とする。)
- (3) 賛助会員 (1口) 1,000円

(会計年度)

第20条 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

《化石観察会「ジョーズにホルッチング」の御案内》

主催 高知県自然観察指導員連絡会

高知化石研究会

目的 室戸市羽根町には、およそ300万年前（新生代第3期鮮新世）の地層があり、貝・魚の耳石・単体サンゴの化石を多く産出し、時には、サメの歯やクジラの歯なども見られる。それらの化石を観察・採取し、300年前の古環境（海藻、海水の寒暖など）について考える。

その他 (1) 期 日 平成5年10月24日(日)

(2) 集合場所 室戸市羽根乙2203

羽根産業社(株)の駐車場

(3) 日 程 10:00~10:10 受 付

10:10~12:00 説明及び観察

12:00~12:45 昼食

12:45~14:00 説明及び採取

14:00 解 散

(4) 講 師 本会及び高知化石研究会会員

(5) 持参用品 ハンマー・たがね（または長さ15cm位の釘）・古新聞・袋・軍手・弁当（あれば貝類図鑑、土が濡れている場合は長靴）

編 集 後 記

今年の夏は、長雨、冷夏、台風と天候不順の日が続き会員の皆様の自然観察も予定もくるわされたのではないのでしょうか。

さて第4号です。会報の第3号が出て以来、長い間が空いてしまいました。

総会にてもおしかりを受けましたが、やっと出すことができました。今後も会報は続けて出していきたいと、会員のご意見ご寄稿をお待ちしております。

発行 高知市秦南町2-30-18 橋本方

高知県自然観察指導員連絡会事務局